

令和7年度 静岡県立浜松大平台高等学校 第4回学校運営協議会 議事録

1 日時

令和8年2月3日(火) 午後1時30分から3時30分まで

2 会場

静岡県立浜松大平台高等学校 会議室

3 参加者

- (1) 学校運営協議会委員 5名
- (2) 浜松大平台高等学校職員 10名

4 内容

- (1) 校長挨拶
- (2) 学習発表会(全日制)報告
- (3) 令和7年度学校評価・質疑応答
- (4) 令和7年度の総括(各委員より)
- (5) その他
 - ア 定時制 学校経営計画書(令和8年度改訂を承認)
 - イ 令和8年度第1回学校運営協議会(令和8年5月に実施予定)

委員より

- ・全日制の探究活動は、実社会とつながる取組を継続できており、小学校から積み上げてきた課題解決型の力が、高校で成果として発揮されるという実感が持てる事例である。
- ・多様な取組の中で、生徒の成長が見られる。成果に結びつかなかった生徒への支援や、活動の過程の中で何を得ているのかを学校として可視化することも有意義なのではないか。
- ・目標達成度は全体として高く、学校経営が生徒の意欲向上につながっており、生徒が夢や希望を持ち、教員への信頼感も高く、魅力のある学校である。一方で、基礎学力の到達度が伸び悩んでいる点を克服できると、さらに進路の幅が広がるのではないか。
- ・交通安全教室を実施していても、日常の登校場面では交通ルールを守らない生徒が多いのも事実である。実情に合わせた新たな取組が必要である。
- ・定時制の学校経営計画は、努力目標中心で、評価が難しい面があったが、多様な背景を持つ生徒たちに対して、社会的に自立できる力を身につけることを目指した、丁寧な支援が行われている。
- ・世間では、「定時制」というと夜間定時制を連想し、働きながら高校に行く生徒だけが対象となっているイメージが定着している。近年、不登校生徒が増える中、学校に通えない・適応できない生徒の学びたい気持ちを受け止める学校として、通信制高校が注目され始めているが、費用面の心配がなく、対面での充実した支援体制のもと学ぶことができる、公立の多部制の定時制の価値を外部に発信する必要がある。
- ・PFI事業が今年度で終了するが、今後も現在の教育の質を維持できるか不安がある。教員業務の分業やアウトソーシングがますます必要で、教員が余裕を持って働ける環境が、生徒の学びや居場所づくりにつながる。
- ・全日制・定時制それぞれに個性があり、社会で生きて働く力や、しなやかな力を育てる取組が行われており、魅力を提示できる学校である。新聞やSNS等を通じた情報発信を積極的に進めて、地域・外部との連携を強める必要がある。